

家畜衛生だより

ヨーネ病の検査方法に 遺伝子検査が追加されます！

令和7年4月1日からヨーネ病の検査方法に遺伝子検査（PCR）が追加され、これまで実施していた抗体検査と選択できるようになりました。検査の違いは、下記の比較表を参考にしてください。

	抗体検査（ELISA）	遺伝子検査（PCR）
検査手数料	800円/頭	2500円/頭
材料	血液	糞便
検査の標的	ヨーネ菌に対する 抗体	ヨーネ菌の 遺伝子
対象月齢	6か月齢以上 ※6か月齢未満は ヨニン検査で対応します。	全月齢
メリット	費用が安い	抗体検査より検出が早い
デメリット	感染後、時間がたたないと抗体の検出ができない	費用が高い
検査に要する時間	検査に要する時間は同じです。 原則、検査（採材）した週に結果をお返しします。	

ヨーネ病のまん延している都道府県からの導入牛は遺伝子検査を推奨しますが、従来通り抗体検査での検査も実施しています。比較表を参考に、導入牛については、遺伝子検査もご検討ください。ご不明な点があれば、中央家畜保健衛生所までご連絡ください。

ヨーネ病とは

特性

牛、めん羊、山羊等の反すう動物にヨーネ菌が感染し、発症まで1年～数年かかる

症状

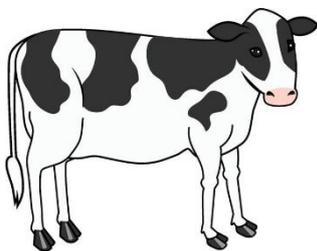
慢性の頑固な下痢、乳量の低下、削瘦

感染・侵入経路

感染牛の糞便に汚染された乳汁、水、飼料などを介し、**経口感染**
ほとんどが母牛から子牛に感染
汚染農場からの導入が主な原因

ヨーネ菌に汚染された乳汁、水、飼料

経口感染



慢性の下痢



<農研機構動物衛生研究部門HP 一部抜粋>

ワクチンや治療薬はありません。

そのため感染牛の早期発見と淘汰が対策で重要になります。

上記症状が見られたらすぐに**家畜保健衛生所**または**かかりつけの獣医師へ連絡**をお願いします。

また、導入牛の着地検査の徹底も早期発見に有効です。